

地域トピックス

◆心和ます花街道（綾織町）

綾織町地域づくり連絡協議会（及川行雄会長）は4月20日、同町の国道沿いにマリーゴールドを定植する地域づくり事業「花街道あやおり」をスタート。振るいにかけて土に燐炭を混ぜ苗床を作った後、約68,000粒の種をまきました。参加者らは、色鮮やかな花が観光客らの目を楽しませることを期待しながら額に汗を流していました。

今後、育苗作業を経て6月下旬に国道沿いに定植される予定です。



沿道を彩る花に思いをはせ作業する参加者

◆車上狙いにご用心（土淵町）

土淵町防犯協会（長畑牧夫会長）などは4月30日、伝承園と水光園の2カ所で車上狙いや盗難防止のPR活動を展開。この活動は、土淵町更生保護女性の会、遠野警察署、土淵駐在所の協力により行っているもので、訪れた観光客らにチラシやガムなどを配りながら、注意を促しました。

同施設を訪れた観光客らは、再度施錠を確認し「ありがとう」の言葉を残しカップラーメンや伝承園などに向かって行きました。



ドライバーに施錠を呼び掛ける防犯協会の会員



両歩道橋の完成を祝い渡り初めする岩滝保育園緑組と黄色組の園児

◆待望の歩道橋が完成

小友町を流れる小友川に架かる小友歩道橋と、長野川に架かる岩観歩道橋の渡り初め式は五月二日、現地で行われ、地元住民ら約四十人が出席。両橋を含む市道小友中央線は、国道107号と町の中心部をつなぐ主要道路。交通量が多い上に幅員が狭く、以前より地域住民から歩行者の安全確保対策を要望されていました。

落成式では、関係者によるテープカットの後、岩滝保育園の緑組と黄色組の園児が渡り初めして完成を祝いました。小友町地域づくり連絡協議会の松田禮司郎会長は「この歩道橋を健康増進にも役立てていきたい」と話していました。



股関節トレーニングの実技指導を行う田中トレーナー④

◆コーチング方法を学ぶ

スポーツリーダー養成塾は五月二十日、あえりあ遠野中ホールなどで開かれました。養成塾は、スポーツ指導者の資質向上などを目的に年四回開催され、一回目となる今回の講座には市内のスポーツ指導者ら約二十五人が参加。

NPO法人日本SQA協会の田中和幸トレーナーを講師に、午前中は「コーチング方法」の講義、午後には「股関節を中心としたトレーニングについて実技指導が行われ、田中トレーナーは「選手やる気をサポートするのが指導者の役目など、ジュニア期における指導のポイントや重要性について分かりやすく説明していました。

◆八戸南部氏の入部を再現

遠野さくらまつりのメインイベント、南部氏遠野入部行列は五月三日に行われ、沿道に詰め掛けた多くの市民や観光客らは歴史絵巻を楽しみました。

入部行列は寛永四（一六二七）年、三戸南部氏二十七代利直公から遠野移封を命じられた八戸南部氏十二代直義公の入部を再現したもので、市民ら約二百八十人が参加。本田市長扮する直義公はじめ、家臣らが約二百人の行列を成して駅前通りなどを練り歩きました。

下一日市広場では、しし踊りや神楽などの郷土芸能が披露され、観光客らの目を楽しませています。



勇壮な踊りを披露する東禅寺しし踊り保存会



晴天の下、直義公の入部を再現した南部氏遠野入部行列

◆おかげさまで10周年

今年で開村十周年を迎えた遠野ふるさと村は、大型連休を開村記念週間として、さまざまな催しを繰り広げました。

四月三十日にはもちつき体験が行われ、つきたてのもちが観光客らに無料で振る舞われました。

群馬県前橋市から訪れた立見文夫さんは「初めて遠野を訪れました。ふるさとの雰囲気を感じられ、いいところですね」と話していました。

遠野ふるさと村は平成八年四月にオープン。かつての農村生活を伝える施設として毎年多くの観光客が訪れ、グリーンツーリズムの拠点にもなっています。



民謡「もちつき唄」に合わせてもちつきを体験する観光客

宝くじ助成事業で地域振興を図る



宝くじ助成事業を活用し整備した音響機器

小友町地域づくり連絡協議会（松田禮司郎会長）は、(財)自治総合センターの宝くじ助成事業を活用し、テレビ、ビデオカメラ、オープンレンジ、集会用テント、音響機器などを整備しました。

整備した機材などは、地区センター主催の生涯学習や各種行事などで活用されるほか、集会用テントなどは貸し出しも行いますので、地域行事などに活用してください。